

言語文化学部・国際社会学部
2018年度前期日程入学試験問題
外国語（英語）
正解・配点・解答例（300点満点）

1

配点＝70点満点　：問3,4は各15点。

問1,2,5,6は各10点。

全体

※いずれの問いも若干の字数オーバー（2,3文字程度）については2点減点。大幅な字数オーバーは指示を無視しているという理由で0点。字数は少なくとも必要な内容が書いてあれば、減点はしない。

※内容だけでなく、主旨のつながりの不完全さ、解答の日本語の構造的な不完全さ、表現の拙さなど、表現や構造の観点から問題があると判断される解答も同様に1カ所あたり1点を減点するものとする。

1.（10点）（解答例）

様々な交友関係に対処できる強力な脳を人間が持ちあわせていることは単なる都合の良い偶然ではないこと。（49字）

（採点基準）

- ・「様々な交友関係に対処できる」という部分の満点が3点。「強力な脳を人間が持ちあわせていること」という部分の満点が3点、「単なる都合の良い偶然ではない」という部分の満点が4点。
- ・ **this** の内容が訳されていない場合はその時点で6点減点。
- ・ 「様々な」のニュアンスがない場合1点減点。
- ・ 「交友関係」は「友情関係」「人間関係」「友達づきあい」「社会関係」「対人関係」等でも可。「関係」だけだと1点減点。
- ・ 「に対処できる」は「を扱える」「をさばける」も可。
- ・ 「強力な脳」は「優れた脳」のような、意味が似た表現も可。「脳」は「頭脳」や「頭」も可。
- ・ **just**（単なる）や **convenient**（都合の良い）を訳していない場合は各1点減点。
- ・ **coincidence**（偶然）の訳語は「偶然の一致」などでも可。

- ・文末は、「こと」のように名詞で終わっていなければ1点減点。
- ・次のような解答も可：
「強力な脳を持つことと（3点）様々な交友関係に対処できることは（3点）単に都合の良い偶然ではないこと（4点）。」

2. (10点) (解答例)

人々が、生物学的につながりがない場合であっても、他者を気にかけるという条件。(38字)

(採点基準)

- ・「人々が生物学的につながりがない場合であっても」の部分が6点満点、「他者を気にかけるという条件」の部分が4点満点。
- ・「人々が、生物学的につながりがない場合であっても」の「場合」の部分は、「他者」でも可。
- ・「生物学的につながりがない」は「血のつながりがない」や「血縁関係がない」「遺伝子のつながりがない」のように噛み砕いて書いても可。
- ・「他者」は「他人」「ほかの人」などでも可。
- ・「生物学的に」は「生物的に」でも可。
- ・「つながりがない」は「関連がない」などでも可。
- ・「条件」「前提条件」などの名詞で終わっていない場合は1点減点とする。
- ・下線部の定義を答えるなど、問題文を理解していない場合は0点。

3. (15点) (解答例)

たとえ嫌いなバンドでも、カッコいい友達がそのバンドを好きなので、自分も好きだと言いたい張るように、自分の所属する集団の考えが自分の考えに及ぼす影響のこと。(75字)

または

自分つまらないと思った映画でも、友達の好きな映画の良い点に関する議論に何時間も費やすように、自分の所属する集団の考えが自分の考えに及ぼす影響のこと。(75字)

(採点基準)

- ・「たとえ嫌いなバンドでも、カッコいい友達がそのバンドを好きなので、自分も好きだと言いたい張るように」または「自分つまらないと思った映画でも、友達の好きな映画の良い点に関する議論に何時間も費やすように」の部分が7点満点。「自分の所属する集団の考えが自分の考えに及ぼす影響のこと」の部分が8点満点。
- ・実例の部分がない場合はその時点で、7点減点。

- ・「言い張る」は「主張する」「言う」でも可。
- ・実例の部分と定義の部分のつながりが適切でない場合は1点減点。
- ・「影響」あるいは「影響のこと」のように適切な名詞で終わっていない場合は1点減点。
- ・「自分の考えが集団の考えに影響を受ける」という方向性が逆の場合は6点減点。「関係がある」のように方向性が明確に示されていない場合は3点減点。

4. (15点) (解答例)

対象者を小さな集団に入れて、3つの線を見せ、どの線が一番長いかを尋ねるといふ実験において、その他の参加者がわざと間違った答えを言うと、最後に答える対象者も、75パーセントの確率で間違った答えを言うこと。(100字)

(採点基準)

- ・「対象者を小さな集団に入れて、3つの線を見せ、どの線が一番長いかを尋ねるといふ実験において」の部分6点満点、「その他の人がわざと間違った答えを言うと」の部分4点満点、「最後に答える被験者も、75パーセントの確率で間違った答えを言うこと」といふ実験の結果の部分5点満点。
- ・最初の部分では「小さな集団に入れること」、「3つの線を見せること」、「どの線が一番長いかを尋ねること」の部分各2点減点。
- ・「対象者」は「被験者」「(実験の)参加者」等でも可。
- ・「わざと」であることが明記されていないと2点減点。
- ・「対象者が最後に答える」ことが記されていない場合は2点減点。
- ・「間違った答えを言う」の部分は、「他の人に合わせて間違った答えを言う」のように情報を補っても可。
- ・「対象者の75パーセントが」でも可。
- ・「75パーセント」は「75%」「4分の3」「3/4」等でも可。
- ・「75パーセントの確率で」が「多くが」「大半が」など具体的に記していない場合は1点減点。
- ・「75パーセントが正解した」や「25パーセントが間違った答えを言う」といふのは、結果を理解していないので、5点減点。

5. (10点) (解答例)

自分自身の背景や個性も、集団による影響と同様に判断に影響を与える場合があるから。
(40字)

(採点基準)

- ・「自分自身の背景や個性も」が5点満点、「判断に影響を与える場合があるから」が5点満点。「集団による影響と同様に」は必ずしも必要はない。
- ・「背景」か「個性」の一方だけだと1点減点。
- ・「背景」は「生い立ち」「生育環境」「経歴」なども可。
- ・「個性」は「人格」や「性格」なども可。
- ・「判断」は「決断」「決定」「回答」なども可。「解答」も許容する。
- ・「判断に影響を与える」の部分は「重要だから」なども可。

次のような解答には部分点：

- ・「集団には様々なタイプの人があり（2点）、周囲のほとんどの人が反対することを喜んで言う人もいるから（4点）」は最高で6点までしか与えない。
- ・「75パーセントの対象者は集団の回答に合わせるが、25パーセントは合わせないから。」のように、実験結果をそのまま書いている場合は最高で4点までしか与えない。

6. (10点) (解答例)

不確かな状況を理解する際に私たちの脳が他者を信頼できる情報源として活用すること。

(40字)

(採点基準)

- ・「不確かな状況を理解する際に」が4点満点、「私たちの脳が他者を信頼できる情報源として活用すること」が6点満点。
- ・「不確かな状況を理解する際に」は「不確かな状況において」や「良く分からない状況において」なども可。
- ・前半部分と後半部分のつながりが不自然な場合は2点減点。
- ・「脳」が「頭脳」や「頭」も可。「知識」「知恵」などは1点減点。
- ・「私たちの脳が」は「人間の脳が」「人々の脳が」「人の脳が」や「私たちが」「人間が」「人々が」「人が」なども可。
- ・「他者」は「他人」「ほかの人」も可。
- ・「他者」の例として「酒場であったような他者」のように具体的に書いても減点はしない。
- ・「信頼できる情報源として」の部分がない場合2点減点。

2 配点=40点満点：各4点×10問

(正解)

- ① regarded ② invaded ③ marching ※ ④ recognise/recognize
⑤ celebrate ⑥ formed ⑦ hire ⑧ vowed ⑨ giving ⑩ comes

※ ③では celebrating も文脈的に可能になるため、「単語は1回のみ使用」という指示に従って) ここでのみ使用していれば4点与える。⑤でも使っているばあいは③の celebrating は0点。

(採点基準)

- ・正しい単語が選択できていれば2点。ただし単語が与えられているので、綴りのミスがあるばあいは0点とする。
- ・活用形の誤りはすべて2点減点。

3 配点=40点満点：各5点×8問

- ① B ② D ③ I ④ C ⑤ E ⑥ H ⑦ F ⑧ G

4 配点=30点満点：各5点×6問

1. a 2. c 3. c 4. b 5. b 6. b

5 配点=40点満点：各4点×10問

1. c 2. c 3. b 4. a 5. c 6. b 7. c 8. c 9. b 10. b

6 配点＝80点満点：1. 要約文 40点 2. 意見文 40点

1. 要約文

(採点基準)

- ・採点官1名につき20点×2名で採点。
- ・要約文全体を形式面(10点満点)＋内容面(10点満点)で評価。
- ・形式面は以下の基準で採点する。

9-10	An essay at this level <ul style="list-style-type: none">・ displays consistent facility in use of language・ demonstrates syntactic variety and appropriate word choice though it may have occasional errors
7-8	An essay at this level <ul style="list-style-type: none">・ displays facility in use of language・ demonstrates some syntactic variety and range of word choice, though it may have occasional errors
5-6	An essay at this level <ul style="list-style-type: none">・ displays adequate but possibly inconsistent facility with syntax and usage・ may contain some errors that occasionally obscure meaning
3-4	An essay at this level <ul style="list-style-type: none">・ reveals a noticeably inappropriate choice of words or word forms・ reveals an accumulation of errors in sentence structure and/or usage
1-2	An essay at this level <ul style="list-style-type: none">・ is flawed by serious and frequent errors in sentence structure or usage・ may be undeveloped
0	A paper is rated 0 if it contains no response, merely copies the topic, is off-topic, or is written in Japanese.

Adapted from TOEFL writing scoring guide

- ・ただし、書かれた分量に応じて上記の基準を適応させる。例えば200語の半分ていどしか書かれていなければ、半分(0.5)の尺度で採点する。

・内容面については、以下の基準で採点する。

Score	Main points	Sub-points
1	Introduction:	a) <u>Traditional style</u> : letter grade A to F based
1	summary of the two styles	b) <u>New style</u> : report based
1	<u>Some advantages of the new style</u>	(Wewers/Nuno) – <u>Students get more feedback</u> that is concentrated on specific problem areas
1		(Stumpf) – <u>Students are willing to take difficult classes</u> because of reduced GPA fear.
1		(Hower) – <u>International students can better understand</u> how they are being evaluated, which is good for international students.
2	<u>A possible disadvantage of the new style</u>	(Coplin) <u>Students might not</u> be self-motivated without (letter) grades.
1		Students might think the system is less competitive Students might think that less effort is demanded
1	<u>and an argument against it</u>	(Rios) - <u>However, in fact</u> , it does not mean less work, since they need to understand what is being taught
1	(counterargument)	(Lake) - Teachers evaluate at each class, so one night of studying will not be enough
Total 10 points (for summarization)		

なお、下線部は問題冊子に印刷され、与えられている。

(解答例)

Traditionally, college student evaluations in the United States have consisted of professors giving letter grades from *A* to *F*. However, some colleges are now trying a report-based system in place of this traditional letter-based evaluation. It is anticipated this new approach will provide more meaningful advice on how students can develop their academic performance.

This report-based system has the advantage of enhancing the overall feedback that the students receive. This feedback allows students to concentrate on specific problem areas detailed in the reports. The fear of undermining their grade point average is diminished so students may be more inclined to take challenging courses they would otherwise avoid. The reports give students a better understanding of how they are being evaluated and this is especially true for international students.

However, some doubt the level of self-motivation in most students. They fear that since the report-based system is less competitive, some students may not be as motivated to work academically. Some students may get the mistaken idea that less effort is demanded because no evaluation grade is awarded.

It does not mean less work, though, since they need to understand what is being taught. Also, teachers evaluate at each class, so one night of studying will not be enough.

(207 語)

2. 意見文

(採点基準)

- ・採点官 1 名につき 20 点×2 名で採点。
- ・意見文全体を形式面 (10 点満点) + 内容面 (10 点満点) で評価。
- ・形式面は以下の基準で採点する。

9-10	An essay at this level <ul style="list-style-type: none"> ・ displays consistent facility in use of language ・ demonstrates syntactic variety and appropriate word choice though it may have occasional errors
7-8	An essay at this level <ul style="list-style-type: none"> ・ displays facility in use of language ・ demonstrates some syntactic variety and range of word choice, though it may have occasional errors
5-6	An essay at this level <ul style="list-style-type: none"> ・ displays adequate but possibly inconsistent facility with syntax and usage ・ may contain some errors that occasionally obscure meaning
3-4	An essay at this level <ul style="list-style-type: none"> ・ reveals a noticeably inappropriate choice of words or word forms ・ reveals an accumulation of errors in sentence structure and/or usage
1-2	An essay at this level <ul style="list-style-type: none"> ・ is flawed by serious and frequent errors in sentence structure or usage ・ may be undeveloped
0	A paper is rated 0 if it contains no response, merely copies the topic, is off-topic, or is written in Japanese.

Adapted from TOEFL writing scoring guide

- ・ただし、書かれた分量に応じて上記の基準を適応させる。例えば 200 語の半分ていどしか書かれていなければ、半分 (0.5) の尺度で採点する。
- ・文法・語彙・綴り・句読点・一貫性・結束性・文章構成・文章量を評価する。

- ・内容面については以下の基準で採点する。

9-10	An essay at this level <ul style="list-style-type: none"> ・ effectively addresses the writing task ・ is well organized and developed ・ uses clearly appropriate details to support a thesis or illustrate ideas
7-8	An essay at this level <ul style="list-style-type: none"> ・ may address some parts of the task more effectively than others ・ is generally well organized and developed ・ uses details to support a thesis or illustrate an idea
5-6	An essay at this level <ul style="list-style-type: none"> ・ reveals inadequate organization or underdevelopment ・ reveals inappropriate or insufficient details to support or illustrate generalization
3-4	An essay at this level <ul style="list-style-type: none"> ・ reveals serious disorganization or underdevelopment ・ reveals little or no detail, or irrelevant specifics
1-2	An essay at this level <ul style="list-style-type: none"> ・ may be incoherent ・ may be undeveloped
0	A paper is rated 0 if it contains no response, merely copies the topic, is off-topic, or is written in Japanese.

Adapted from TOEFL writing scoring guide

- ・なお、全く関係のない内容について書かれているばあいには、0点とする。

(解答例)

In Japan, there is an obvious need for standardized scoring of individual academic performance, but this measure should be more than a single letter. Japanese employers and graduate schools require a coherent picture of an individual's competences to select the most appropriate applicants. Without a precise record of academic performance, the

recruiters have less information with which to make an informed assessment, so the chance of selecting exceptional people is diminished.

Globalization is a reality and with this comes a necessity for standardization in all forms of measurement. This includes the measure of academic performance as it facilitates accurate evaluations of international students and potential employees regardless of origin. A simple unidimensional measure of Japanese academic performance does not furnish adequate information, so a more multidimensional measure is needed.

Exceptionalism exists in all human endeavors, and this is especially true in the academic world. However, there are many forms to excellence requiring different combinations of abilities that must come into play. A single letter or number cannot inform us what specific ability the individual has to offer. However, a system consisting of multiple measures of competencies would allow the individual strengths of candidates to stand out.

(196 語)